

お元気ですか

新年の御挨拶

公立富岡総合病院
院長 牧野武雄



明けましておめでとうございます。今年
は辰年。昇り龍の如くに低迷した日本経
済・世界経済の回復と東北の被災地の復興
が切に望まれます。需要はきりなく多いの
でうまく作用すれば仕事も増え日本経済が
復興景気に沸き活力ある日本に再生でき
るはず。医療・介護の分野でも今後益々
需要が増加致します。働く職場が増えるこ
とは元気な人が増えることです。完全なデ
フレスパイラルに陥った状態から脱却する
良いチャンスです。

当院も昨年3B・4B病棟リニューアルし
てすっかり明るくきれいになりました。今
年はA病棟の番です。さらに電子カルテの
入れ替えやエネルギーセンターの改築など
景気回復に貢献すると共に、働き易い明る
い職場環境作りを目指します。

また地域中核病院として病院の理念のご
とく患者中心の医療を旗印に急性期病院と
して、救急医療の充実と医療水準の向上に
努めたいと思います。創意工夫により、効
率的な運営を行い、健全な経営でしっかり
足元を固めていきたいとます。

私生活では新しい年、辰年を迎えて良き
年になりますようにと願掛けと自力でのス
テップアップ目指します。足元固める意味
でも家族「妻や子供・孫達」を大切に
して日々前向きで持ち前のノウテンキさで楽
しく過ごすことを第一に心がけたいと思
います。又接遇の大切さ、ありがたさは患者、
又家族の立場になって初めてしみじみと感
じることができます。私も二人の母が受け
た心温まるやさしい介護・看病今でも思
い出します。ゆったりとした時間のある介護
施設のことで急性期の飛び回る忙しさのな
かでの接遇とは比較できませんが。たった
の一言・一動作でよいので優しさと暖か
みのある医療・看護をめざしましょう。今
年は忙しい外来のなかでも、一言患者さん
に声かけを心がけようと思います。

昨年は自然災害や原発事故・政治・経済
の落ち込みと激動の一年でしたが、今年一
年穏やかな年であり、皆様にとって良い年
でありますように御祈念致します。



イメージキャラクター
しばちゃん

発行 公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡 2073-1 電話 0274-63-2111 F A X 0274-63

HP アドレス <http://www7.wind.ne.jp/tomihp/> E-mail tomihp@mail.gunma.med.or.jp

大規模災害対策

麻酔科・手術室長
嶋田 均

地震や水害、また大きな交通事故などで一時的に多数の傷病者が来院すると、病院は普通の診療体制では対応できなくなります。薬や点滴のような医療物資、医師や看護師などの人的資源が相対的にいきなり足りなくなってしまうからです。必要が一気に供給を上回ってしまう状況といってもいいでしょう。

このようなときに備えて当院には大規模災害対策委員会があります。その委員会が中心になって毎年、多数傷病者に対応する訓練を行ってきました。いままでの想定は大型バスの衝突で数十人規模の傷病者を収容するというものでした。今年は地震を想定して行われました。病院のマンパワーがなければ多くの負傷者に対応できません。夜間休日でもできるだけ早く人集めをしなければなりません。また、せっかく職員が集まっても何をすればよいのかわからない烏合の衆ではいけません。人をどのような集め、どう動いていくか。こういったことを中心に訓練は行われます。

このような多数傷病者対応が日本でもっともうまくいった例は地下鉄サリン事件のときの聖路加病院だったといわれます。当時の日野原重明院長は、若き医師として勤務していた太平洋戦争末期、東京が空襲を受けて多数の人が負傷してもなすすべがなかったことを悔しく思い、今後災害が生じたときにできるだけ多くの人を救援したいとの決意で多くの工夫をしてきたそうです。聖路加病院の象徴ともいえるチャペルも、いざというとき負傷者を収容できるように酸素などの配管がなされてきました。サリンによる最初の被災者が到着してからまもなくといっぴよい短時間のうちに通常業務を停止、原因不明の奇妙な症状に苦しむ多数の患者に病院が一丸となって対応することを決めました。見事な状

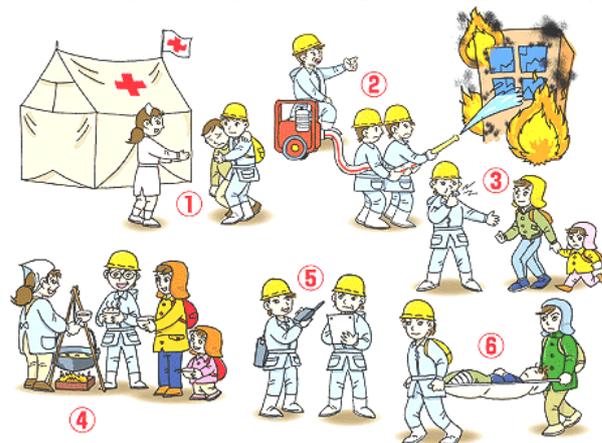
況判断だといえます。

このときの聖路加病院の対応は災害医療の分野において世界的に注目されました。

被災者は救急車や自家用車などで搬送されるほか、自力で歩いてやってくる人もいます。中越地震のときの小千谷病院のように病院自体が被害を受けてしまうことも考慮しなければなりません。いろいろな要素があるとどんどん複雑になっていきますが、「想定外」という言葉は使いたくありません。しかし「あらゆることを想定する」ということは容易ではありません。マニュアルが厚くなるとかえって機敏な動きがとれなくなるとも言われています。臨機応変に対応できる能力を備えることが求められます。この能力は繰り返し行われる机上訓練や実地訓練でこそ養われるものと考えます。

東日本大震災の当日、当院は12時間ほど東京電力からの送電が途絶えました。病院にはそのような際に生命維持装置を動かし続けるための無停電装置や非常用発電機が備えられています。しかし、それらですべてのエネルギーをまかなえるわけではなく、入院患者さんたちには暖房が働かず寒い思いをさせてしまいました。このような経験も今後に活かしていかなければなりません。

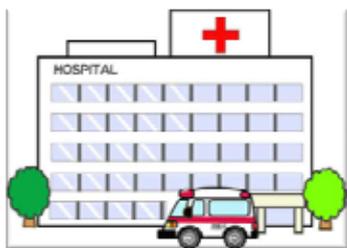
「災害は忘れなくてもやってくる。」私たちも、聖路加病院のような先例を見習って準備や訓練を怠らず、いざという時に可能な限り病院機能を維持できるよう勤めていきたいと思ひます。



病棟リニューアルオープン

3 B病棟 きれいになりました！

3 B病棟看護師 上原百恵



昨年8月からの改修工事が10月いっぱいまで終了し、11月から3 B病棟がリニューアルオープンとなりました。改修中は泌尿器科と皮膚科が3 A病棟、脳外科が4 B病棟に移動となり、スタッフもそれぞれの病棟と2 B病棟・4 A病棟・外来に分かれての勤務。不安もありましたが、他病棟を知る良い機会となりました。そして何よりも、移動にご協力いただいた患者様・ご家族様、工事中は騒音にも悩まされたと思いますが、療養中で大変な時にもかかわらずご理解いただき、スムーズに改修を行うことが出来ました。

さて、ここからは新生3 B病棟の紹介です。まずは病棟内の明るさ！照明にはLEDを使用しており、省エネにも繋がります。何よりも、病棟が明るいと気持ちも明るくなりますね。そして、4人部屋(2部屋)にトイレが付きまして。これには、「トイレが近くにあると安心」と患者様の評価も上々です。更には、サービスセンターがオープンカウンターとなったことで、患者様と看護師の距離が近くなったような気がしています。

スタッフ一同気持ちも新たに、LEDの明るさに負けない笑顔で患者様・ご家族様に寄り添った医療が提供できるよう、きれいになった病棟で頑張りたいと思います。

4 B病棟リニューアルオープン

4 B病棟看護マネジャー 中島恵津子



4 B病棟改修工事につき騒音、振動等で患者様及び職員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。皆様のご協力のもと工事も順調に進み、昨年12月末には完成し今年1月5日にオープンとなりました。工事中、病棟スタッフ29名は「各病棟、外来のよいところを持ち帰り病棟運営に繁栄させること」を合い言葉に配属された病棟、外来で看護に励みました。また、昨年11月にリニューアルした3 B病棟を参考に、患者様の安全面を考慮した療養環境の確保及びスタッフの動線を考えて、各部屋の器械備品、物品の配置を検討いたしました。これを機に、今まで以上に一丸となって患者様によりケアが提供できるようにがんばっていきます。

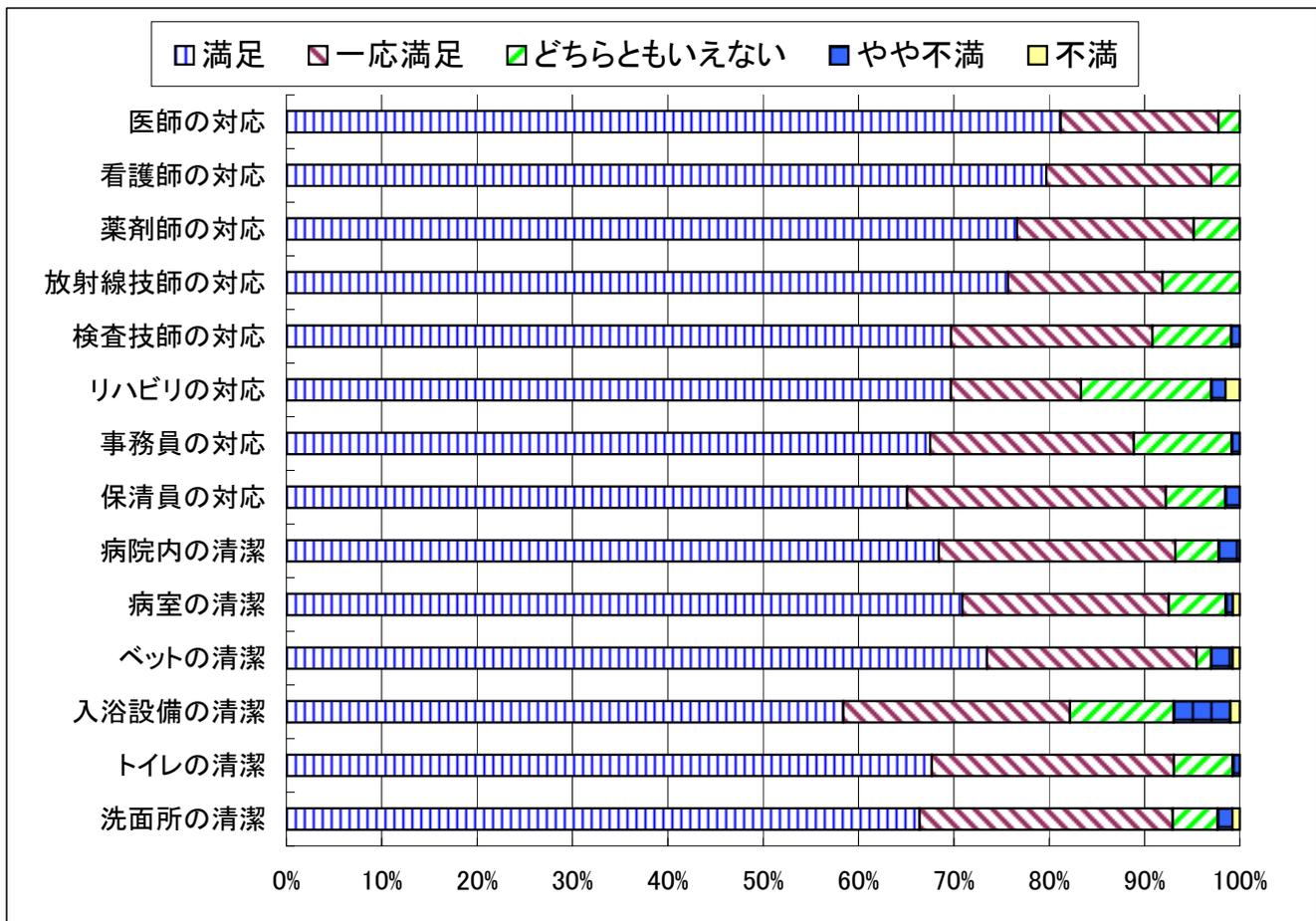
平成23年度患者満足度調査 結果報告

当院は、地域中核病院として、より良い病院を目指しています。
 そこで、入院患者様を対象に平成23年10月4日(火)から10月17日(月)の14日間、外来患者様を対象に平成23年10月6日(木)にアンケートをお願いしました。
 結果は次のとおりです。

1 入院・患者満足度調査結果報告

〔 対象者:平成23年10月4日(火)～10月17日(月)の期間に入院された方 〕

アンケート回収数136名(女性67名 男性65名、無回答4名)でした。
 入院経験については、76%の方が経験があり、24%の方が「初めて」でした。当院の選択理由として「総合病院だから」が26%「医療設備が十分に整っている」が20%、「他医療機関からの紹介」が18%でした。「職員の対応や施設の清潔」については、下記の結果となりました。



各職員や設備について、「満足」と「一応満足」を合わせ平成22年度と今回を比較しますと下記の結果となりました。
 これからもより良い医療サービスに努めて行きたいと思えます。

	平成22年度→平成23年度(%)	平成22年度→平成23年度(%)	
医師の対応	97→98 △	保清員の対応	95→92 ▼
看護師の対応	98→97 ▼	病院内の清潔	95→93 ▼
薬剤師の対応	94→95 △	病室の清潔	94→92 ▼
放射線技師の対応	92→92 -	ベットの清潔	97→95 ▼
検査技師の対応	91→91 -	入浴設備の清潔	85→82 ▼
リハビリの対応	82→82 -	トイレの清潔	92→93 △
事務員の対応	91→89 ▼	洗面所の清潔	92→92 -

2 外来・患者満足度調査結果報告

〔対象者:平成23年10月6日(木)に外来受診された方〕

外来患者数 703名、アンケート回収数 287名、回収率40.8%でした。
 (女性139名、男性136名 無回答12名)
 当日は、多くの患者様にご協力いただきありがとうございました。

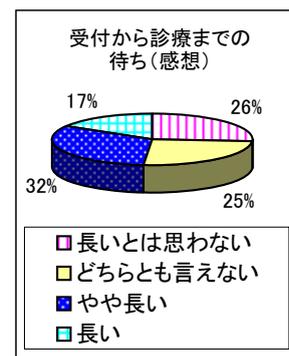
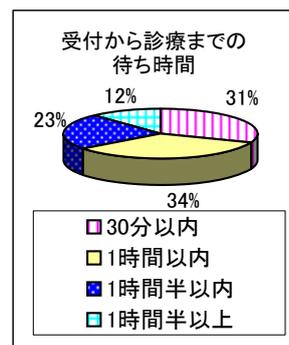
性別は女性51%、男性49%でした。年齢は50代以上の方が70%を占めていました。当院の選択理由としては、「総合病院だから」が32%、「紹介」が21%でした。「予約・当日受付」別では、75%以上が予約でした。

受付から診療までの待ち時間は、30分以内・1時間以内の方が65%で、1時間半以内から以上の方が35%でした。患者様の感想としては、「長いとは思わない」が26%、「やや長い」が32%、「長い」が17%、「どちらとも言いえない」が25%と、昨年より長いと感じられた患者様が多いという結果でした。

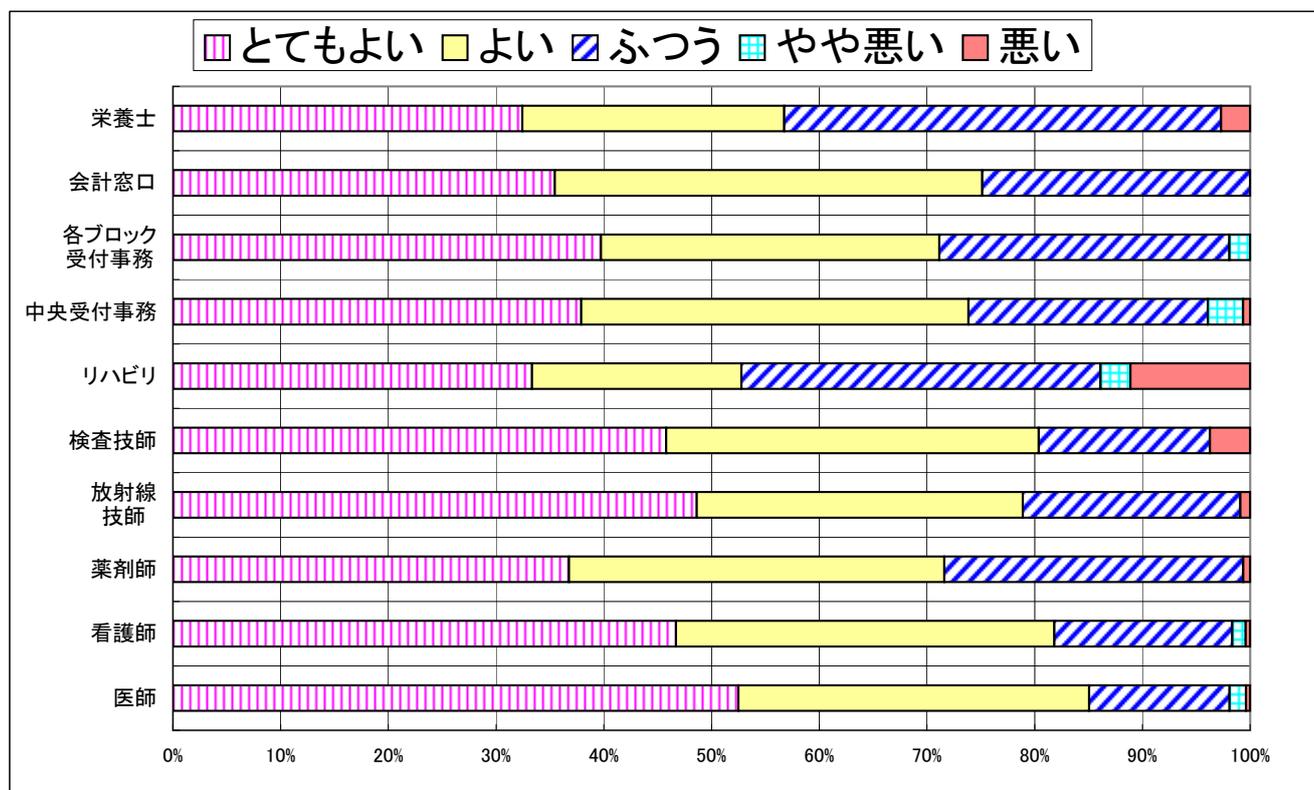
また、待ち時間の感覚は各々であり、「総合病院だから長い待ち時間でもしょうがない。」や「長時間待ったとしても診察を1人1人丁寧にしてくれる方がいい」との回答もあり、個人差が見られました。その他、「予約なのでもう少し考えた予約時間にしてほしい。」との意見もありました。

「かかりつけ医がいます」と回答された方が59%(56%)で、お持ちでない方は41%(44%)でした。意見内容から病状や待ち時間等の理由により、病院と診療所を選んで受診していることがわかりました。内科・消化器科の紹介制に関連し、「他院でかかりつけ医を持ちたい」と感じている方も多く、更に病診連携の強化に努めていかなければならないと思いました。

また、診療に対する不満や職員の接遇に対するご意見もいただきました。※()は前年%



* 各職員のマナー・対応・あいさつは、いかがでしたか。*



各部署の対応は上記の結果となりました。患者様からいただいた貴重なご意見を参考にして、全職員が教育や接遇研修に参加し、より良い医療サービスができるよう努力してまいります。

また、日頃お気付きの点がございましたら、院内に設置してあります「皆様の声」の箱にご意見を投函してください。個人的な回答はいたしません、毎月エントランスホールの掲示板に回答をさせていただきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

糖尿病療養指導士としての薬剤師の役割



公立富岡総合病院薬剤部 金井 威、齊藤 亮輔



わが国における糖尿病患者数は、年々増加傾向にあります。さらに、糖尿病に起因する合併症を発症する患者数も年々増加しています。糖尿病とその合併症は、糖尿病を有する人々の生活に大きな影響を与え、生活の質を著しく低下させています。

糖尿病治療の最終目的は、合併症を発症もしくは進展させずに、健康な人と変わらない生活を維持することにあります。糖尿病の治療には、食事療法、運動療法、薬物療法の3つがあります。さらに、患者さんが自分自身の病気を理解し、積極的に治療に関わっていくことが重要な治療手段となります。それを援助するのが糖尿病療養指導士です。



糖尿病療養指導士の業務は、医師の治療方針に沿って、様々な職種が、その専門性を活かし、チームとして連携しながら指導を進めていきます。その中でも薬剤師は主に服薬指導を中心に患者さんに関わっていきます。

現在、当院薬剤部には2名の糖尿病療養指導士がいます。糖尿病の薬物療法は新薬の開発に伴い、以前よりもさらに治療が複雑化しています。合併症の治療に使用される薬剤も多数必要とされています。多剤併用がなされ、薬物間の相互作用・副作用についても注意が必要です。薬剤師として薬剤の特性を十分理解し、適切にわかりやすく指導できるように努めています。



今後は、患者さんの生活スタイルを重視し、個々のニーズに合った服薬指導を行っていきたいと考えています。その為にも、幅広い知識が得られるように日々自己研鑽をしていきたいと思いを。

手押し車5台寄贈いただきました

当院にて、透析治療を8年間続け昨年11月にご逝去された児玉百代様より、透析患者用手押し車が寄贈されました。その感謝の意を表して、院長よりご家族へ感謝状を授与させていただきました。



病院ボランティア募集！

車椅子を利用される患者様の自動車の乗り降りの援助

患者様への病院施設内の案内

など



参加いただける方、興味のある方はお気軽にお問い合わせください！

公立富岡総合病院 電話 0274-63-2111(代表)

病院サービス課 地域医療連携室 ボランティア担当

第 2 2

シリーズ 職場紹介

健診センター室

健診センター室課長 小島賢二

こんにちは。健診センター室の紹介をさせていただきます。

健診センター室は、健診サービス担当が業務を行っていますが、健診業務は健診医師を始め、看護、放射線技師、検査技師、栄養科及び各診療科医師のサポートにより成り立っております。

健診のコースは多岐にわたり、お泊りの短期人間ドックから半日の各種健診まで22種類63コースに分かれています。

そのため、朝8時の受付に始まり、8時45分、9時30分、10時と健診のコースにより受付時間を変えております。

主な受付といたしまして、8時は日帰りドック及び生活習慣病予防健診、8時45分は短期人間ドック、9時30分は定期健診、10時の受付は受健者が朝に集中しないよう待ち時間をなるべく短くしたいと考えまして、日帰りドック・生活習慣病予防健診・定期健診の一部の方及び特定健診の受健者を設定しています。

日本人の死因のトップであるがんの早期発見のため、30歳になりましたら定期的に健診を受けられることをお勧めいたします。

毎年4月から12月まで受健希望者がとても多く、1月から3月は比較的余裕がありますので、この期間でしたら待ち時間も短いと思われます。

これからも、お越しいただきました方々にスムーズな健診を受けていただき、気持ちよくお帰りいただくことを健診センター一同が心掛けて

いきます。



健診、保健指導に関する申し込み・問い合わせ

公立富岡総合病院 健診センター

TEL : 0274-63-2111 (代表) FAX : 0274-63-8823